

2023年3月2日

一般社団法人 日本船主協会

日本船主協会、国際船員労務協会および全日本海員組合による訪問団が
ジブチ共和国の自衛隊活動拠点等を訪問
～ソマリア沖・アデン湾での海賊対処行動に感謝～

ソマリア沖・アデン湾にて、日本を遠く離れ酷暑等厳しい環境下で海賊対処行動に従事する自衛隊員・海上保安官の皆様へ感謝の想いを伝えるべく、日本船主協会（以下、船協）、国際船員労務協会（以下、国船協）および全日本海員組合（以下、全日海）は、例年活動拠点*等があるジブチ共和国に訪問団を派遣しております。

新型コロナウイルスの世界的流行により、2019年を最後に派遣の中断を余儀なくされておりましたが、この度、船協池田会長を団長**とし、3年ぶりに、2月23日～26日（現地）の日程にて訪問団を派遣いたしましたので、その模様をお知らせします。なお、訪問団の派遣は今回で9回目となります。

<2月23日>

訪問団は駐ジブチ共和国大塚海夫特命全権大使を表敬訪問し、公邸での歓迎会に参加しました。冒頭開会の挨拶では、大塚大使より歓迎の意とともにジブチ共和国の紹介がありました。

歓迎会には、派遣海賊対処行動に従事する各隊幹部等の参加もあり、日本料理を賞味しつつ、各隊の業務、生活や海運業界の現状、同国の文化等について意見交換を行いました。

最後に池田会長は、謝意を伝えたくて、「これから訪問を通じて学ぶことをしっかりと日本の関係者に伝えていきたい」と訪問への意気込みを述べました。



参加者全員での記念撮影



大塚大使より説明を受ける池田会長

<2月24日>

○護衛艦「すずつき」表敬訪問

訪問団は現地海域で活動する護衛艦「すずつき」を表敬訪問し、海賊対処行動への謝意を表すべく、感謝状贈呈式を開催しました。乗艦勤務に携わる隊員を前に、池田会長は、感謝の言葉とともに「ソマリア沖アデン湾に海上自衛隊が展開していることへの安心感は絶大であり、日本をはじめとする各国の海賊対処行動があるからこそ、昨今の海賊事案の激減および安全な海上交通路が確保されている」と海賊対処行動の意義を強調しました。挨拶後、池田会長より飯ヶ谷第8護衛隊司令および森口派遣捜査隊隊長への感謝状を、国船協池田常務理事事務局長ならびに日本郵船樋口執行役員より夫々記念品を贈呈しました。



挨拶をする池田会長



飯ヶ谷第8護衛隊司令へ感謝状を贈呈



森口派遣捜査隊隊長へ感謝状を贈呈

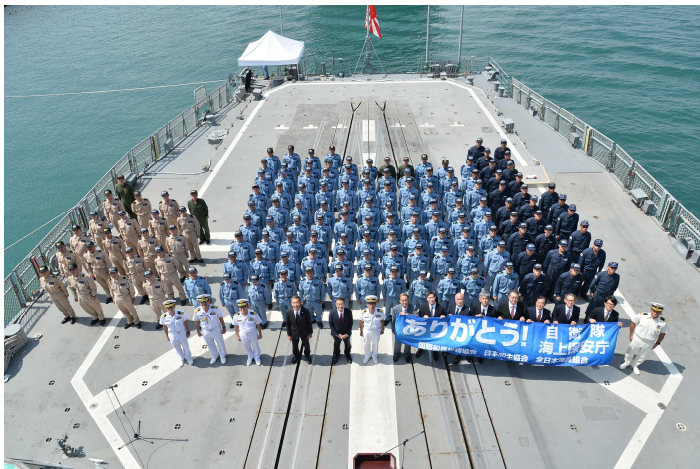
贈呈式後は飯ヶ谷司令により、海賊対処行動の現況や「すずつき」の活動状況（商船の護衛や訓練内容等）のほか、艦内での生活等について説明がありました。また岩森艦長の案内により艦橋等艦内各所を見学のうえ、前甲板上で記念撮影も行いました。



飯ヶ谷司令による説明の様子



艦内見学の様子



集合写真



前甲板での記念撮影

その後、士官室にて特製のカレーを頂きながら幹部隊員と意見交換を行い、飯ヶ谷司令は「海賊行為の抑止し商船の安全運航に貢献すべく、残りの任期も引き続き任務に邁進していきたい」と語りました。



意見交換の様子



すずつき特製カレー

○航空隊・支援隊拠点 表敬訪問

護衛艦に続き、海賊対処行動航空隊・支援隊を表敬訪問しました。まず支援隊吉田司令より、拠点設立の経緯、組織構成、支援隊活動内容や拠点施設の概要等について説明がありました。説明内で吉田司令は「海賊対処行動への支援や各種活動を通じて、海賊事案発生への抑制や駐在各国との良好な関係の維持、ひいては自由で開かれたインド太平洋の実現に貢献したい」と話しました。



説明を受けた後、2月に完成したばかりの新曹士隊舎や厚生棟等各施設を見学し、隊員の生活を垣間見ました。



新曹士隊舎の隊員居室を見学



厚生棟の食堂を見学

また、護衛艦「すずつき」同様、感謝状贈呈式を開催し、池田会長より感謝状を、全日海池谷中央執行委員国際局長および川崎汽船藤丸執行役員より夫々記念品を贈呈しました。池田会長は挨拶で、隊員への謝意ならびにこれまでの自衛隊の活動実績に触れ、「海賊対処行動により、海運業存続の前提である、世界の海が自由で開かれたものになることを願うとともに、無事に職務を完遂し帰国できるよう心より祈念している」と激励しました。



挨拶をする池田会長



感謝状贈呈の様子



航空隊川村司令（左）・支援隊吉田司令（右）と記念撮影



施設前での記念撮影



隊員の皆様との集合写真

○訪問団主催の意見交換会（1）

表敬訪問後、大塚大使ほか大使館職員や飯ヶ谷司令はじめ「すずつき」幹部隊員にご出席いただき、訪問団主催の意見交換会を実施しました。冒頭の挨拶で池田会長は「訪問を通じ、商船と護衛艦では乗組員の数をはじめ多くの相違点があることを新たに知ることができたとともに、日々過酷な環境で海賊対象に従事

する隊員の皆様にあらためて感謝申し上げたい」と述べました。

その後、参加者の自己紹介や意見交換を通じ親睦を深め、出席した隊員の方々からは「海賊対処行動への認知度が低いほか、日本から感謝の声を聴く機会は多くないため、今回の訪問や意見交換会によって活動のモチベーションが高まった」といった声が聞かれました。



<2月25日>

○ワイス 沿岸警備隊長官 表敬訪問

冒頭長官より、日本とジブチが長らく友好関係にあることや日本が沿岸警備隊へ寄附した巡視艇に触れ、日本からの長期的なジブチに対する支援への感謝が伝えられました。

その後、沿岸警備隊の沿革、構成や活動内容等（海賊行為、漁船の違法操業、密輸の取締りや海外部隊との共同訓練および連携等）について説明がありました。またワイス長官は海賊への対処について、「現在日本をはじめ各国の連携により海賊事案は減少しているものの貧困や治安の悪化といった海賊が発生する根本原因は解決しておらず、継続的な活動が必要である」との認識を示しました。

池田会長は説明を受け、商船の安全運航等の確保に向け日頃より尽力いただいている点について謝意を伝えました。



ワイス長官



土産品を贈呈

○ハディ 港灣・フリーゾーン庁長官 表敬訪問

まず同庁担当者より同庁の概要について説明を受けました。説明では、ジブチのアジア・ヨーロッパ・アフリカの3つの大陸が交差するという特徴を生かし、ジブチを貿易と物流の国際拠点とする構想の実現に向け、積極的な投資やジブチ港の利活用について呼びかけがありました。その後、長官とジブチ港の現況等について意見交換を実施しました。

池田会長は「船協会長という立場上、商業的な判断についてはコメントを控えたいが、ジブチの地理的特性を活かした構想には感銘を受けた」との見解を示しました。



ハディ長官



同庁関係者との記念撮影

○ドラレ多目的港 視察

同港担当者より、ドラレ多目的港の施設、取扱い貨物（植物油、コンテナ、穀物雑貨等）や商船の寄港実績等といった概要のほか、ジブチとエチオピアを結ぶ貨物鉄道が完備され、インフラが整備されている点が強調されました。池田会長は説明への謝意やジブチ訪問の主目的を伝えるとともに、「船協としては安全運航や環境対応で協力の余地があるのではないか」とコメントしました。

説明後、同港の荷役設備や鉄道施設等を見学しながら同港担当者と意見交換を行いました。



意見交換の様子



多目的港見学の様子

○訪問団主催の意見交換会（2）

前日に続き、海賊対処行動への感謝の想いを伝えるべく、吉田司令や航空隊川村司令ほか航空隊・支援隊職員にご出席いただき意見交換会を実施しました。冒頭の挨拶で池田会長は、任務完遂を祈願するとともに、あらためて海賊対処行動への謝意を伝えました。

これに対し吉田司令は「隊全体で見ると航空機を飛ばす等大きな仕事をしているが、隊員1人1人の視点で見ると、毎日拠点ゲートに立ったり、同じような整備作業をしたりと単調な日々になりがちなため、今回の訪問団の来訪や感謝状の贈呈は、間違いなく隊員への刺激になり任務の活力になる」と話しました。また、川村司令は「家族と離れているが、飛行中は機内一体となって頑張っている」と語りました。意見交換でも話は弾み、終始和やかな雰囲気では終了しました。



<2月26日>

○ユスフ 商工会議所会頭 表敬訪問

ユスフ会頭より、観光や商業のほか、特に物流に注力していると紹介があった後、「日本の商船はオンタイムで到着するので非常に信頼している。また、大塚大使はわが国の要求に即応いただけており、日本との関係強化に繋がっている」と友好的な状況について説明がありました。また、ロジスティクスについて、「航空機で30分も要しないエチオピアとの貿易は重要であり、日本の優れたロジスティクス手法を是非持ち込んで欲しい」と企業誘致を望む発言がありました。

池田会長は、自身の定航業務の経験からコンテナ業務は難しさがあるとしたうえで、「ジブチは交通の要衝であるほか、各国軍隊が駐留していることや治安も良好であることを理解した一方、アフリカのビジネス環境は日本ではあまり知られていないため、その様な利点について日本の関係者に伝えたい」と回答しました。加えて、物流の拡大には道路等インフラ整備が必要なのではないか、と示唆しました。



ユスフ会頭（右）



○アリ・ハッサン 外務次官 表敬訪問

次官からは、大塚大使の精力的な活動や JICA の活動がジブチにとって有意義であり、1989 年に極東地域で初めての同国大使館を設置したことからも、日本は歴史的に繋がり深いベストパートナーであるとの紹介がありました。

池田会長は、同国訪問の主目的を伝えたくて、海賊対処に従事する自衛隊活動拠点の設置に理解を示す同国の姿勢、ならびに隣国ソマリアの政情が不安定な中でも、自衛隊活動拠点の隊員は不安を抱くことなく活動できている点について、「ジブチ政府によるご尽力の賜物である」と謝意を伝えました。

次官からは、「紅海とアデン湾の結節点であるバブエルマンデブ海峡の治安維持は重要であり、ジブチによる警戒が奏功している。当国を理解していただけることはとても重要なシグナルであり、日本のビジネス関係者にも大いに宣伝して欲しい」と要望しました。

池田会長は、「今回の訪問を通じ、物流環境の整備が進んでいることや治安も安定していること等多くの事を知ることができた」と、これまでの訪問を締めくくる感想を述べました。



アリハッサン外務次官



ジブチ共和国は世界一暑い国と言われ、夏季では50度を超える日もあると言われており、今回訪問したのは冬季ではありますが、それでも日中は30度を越え、高い湿度とともに強い日差しが照り付けており、外に出るや汗が噴き出し、非常に暑く感じられました。

海賊対処行動による海賊事案の抑止ならびに安全な海域確保は、日本を遠く離れ厳しい環境下で日々の任務に従事する自衛隊員・海上保安官の皆様のご苦勞、そしてそれを支援する日本政府・大使館やジブチ政府関係者等多くの方のご協力があり実現していることを実感した訪問となりました。皆様の弛まぬご尽力にあらためて心より御礼申し上げます。

以上

※2009年に海賊対処法が成立し、2011年にはソマリア沖・アデン湾において海賊対策に従事する自衛隊・海上保安庁の活動を支援する活動拠点がジブチ共和国に設置された。

※※訪問団メンバー 計12名

池田 潤一郎	日本船主協会 会長
森重 俊也	同 理事長
藤橋 大輔	同 会長秘書(商船三井)
谷本 光央	商船三井 常務執行役員
樋口 久也	日本郵船 執行役員
藤丸 明寛	川崎汽船 執行役員
池田 良一	国際船員労務協会 常務理事 事務局長
池谷 義之	全日本海員組合 中央執行委員 国際局長
遠藤 将実	同 国際局 外航部
平尾 真二	日本船主協会 海務部長
多田 宏高	同 海務部 副部長
島本 翼	同 企画部 広報室